

第 67 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録(案)

1. 日 時：2015 年 8 月 21 日（水） 13 時 30 分～17 時 00 分
2. 場 所：日本機械学会 4・5 会議室
3. 出席者：青山(東大)、樺田(MHPS)、大橋(中電)、長谷川(発電技検)、
逢澤(MHPS 日立)、飯島(日溶協)、水谷(東工大)、飯田(東電)、
原田(東芝)、川端(関電)

欠 席： 山下(神鋼)、幅野(IHI)

オブザーバー：倉富(東電)

事務局：原

4. 配付資料

- 67-1 第 66 回溶接分科会議事録(案)
- 67-2 溶接分科会委員名簿
- 67-3 第 74 回発電設備規格委員会議事録(案)
- 67-4-1 新旧対比表(規格委員会書面投票 No293 意見対応によるもの)
- 67-4-2 規格委員会書面投票 No293 の投票意見と対応案
- 67-4-3 新旧対比表(書面投票 No310 に反映されていない追加変更部分)
- 67-5-1 登録安全管理審査機関への JSME 火力設備規格説明会報告
- 67-5-2 JSME 火力設備規格説明会資料(溶接関係)
- 67-6 アルミ事例規格廃止に係る規格委員会委員長の見解および要望
- 67-7-1 審議履歴表
- 67-7-2 レビュー票(関西電力)
- 67-7-3 レビュー票(MHPS)
- 67-7-4 レビュー票(東芝)

5. 議事

- (1) 前回議事録確認 [資料 67-1]

前回議事録(案)について確認を行い、議事録(案)が承認された。

- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 67-2]

○出席委員全員の賛成により、倉富氏を新任候補として次回火力専門委員会へ推薦することが承認された。また、幹事について互選の結果、倉富委員候補を幹事候補として推薦することとした。

(3) 報告事項

(3-1) 発電設備規格委員会報告

[資料 67-3]

第 74 回発電設備規格委員会(6 月 10 日開催)の審議内容が報告された。主要な事項は以下のとおり。

- アルミ事例規格廃止に係る規格委員会委員長の見解および要望
- 第 72 回火力専門委員会報告
- 発電用火力設備規格に関する審議
 - ・ 発電用火力設備規格追補案の規格委員会書面投票 No293 意見対応以降の審議の進め方を確認した。

(3-2) 発電用火力設備規格追補案書面投票状況・意見対応等報告 [資料 67-4]

樺田副主査が、資料に基づき以下について報告を行った。

- 規格委員会書面投票 No293 の意見と対応案について、溶接分科会に係る意見とその対応案について説明があった。
- 書面投票 No293 意見対応による追補案変更点の対比表と、この変更点が火力専門委員会のメール審議(7/31～8/6)において可決になったことおよび現在規格委員会の書面投票中(No310、8/7～9/7)であることの報告。
- 規格委員会書面投票 No310 に反映できなかった追補案修正箇所(意見 No 91 の再々対応による修正)については、8/28 の火力専門委員会および 9/9 の発電設備規格委員会にお諮りする予定であること。
- 現在の追補改訂案は、火力専門委員会の書面投票まで反映したものであるもので、それ以降の修正については、各委員が担当分に変更箇所があるか確認して、改訂案を修正する。

(3-3) 登録安全管理審査機関への JSME 火力設備規格説明会報告 [資料 67-5]

樺田副主査から、7/28 に開催された登録安全管理審査機関への JSME 火力設備規格説明会について、参加者、説明内容・説明資料、質疑の概要の報告があった。また当日配布した説明資料の内、溶接分科会に係る資料の概要を紹介した。

- 法定の溶接事業者検査には、溶接事業者検査の解釈、溶接事業者検査のガイド(以上通達)および火技解釈溶接部の解説がある。JSME 規格には、これらに該当するものがないため、相当するものが必要になる可能性がある。
- 第三者検査員については、該当する仕組みが日本にはないことから、現状で問題になることはないと判断している。
- 主査指示事項：事務局は、樺田副主査、倉富幹事の指導のもと、どうすれば使ってもらえる規格になるかについて、議論の元となる題材を整理し、

次回の分科会までに三役に報告すること。

(3-4) アルミ事例規格廃止に係る規格委員会委員長の見解および要望[資料 67-6]

飯田委員(火専幹事)から規格委員会金子委員長の要望事項をまとめた資料「アルミ事例規格廃止に係る規格委員会委員長の見解および要望」をもとに、事例規格廃止に至った経緯、問題点、今後の活動における問題点・課題の克服に向けた各委員への要望事項について紹介があった。

(4) 審議事項

(4-1) レビュー票審議

1) 審議履歴票確認

[資料 67-7-1]

樺田副主査が審議履歴票により、レビュー票の審議状況について、初版が確定しているもの、レビューが残っているものについて、確認を行った。

2) 第Ⅶ章アーティクルⅠ(川端委員)

[資料 67-7-2]

川端委員が資料を基に、レビュー票を説明した。

- ・ QW-151.2, QW151.4 3inch なので、実用上の使いやすさを考慮して 76.2mm とする。
- ・ QW-182 変更区分を③とする。当該規定内に 2 種類の試験片がありそのうち 1 つについて換算見直しを行った結果緩やかになるものの、従来の規定値および見直しの発生しない他方の判定基準と比較しても保安水準としては十分と判断した。
- ・ QW-184 変更区分を②とする。
- ・ QW-191.1.2.2 不連続にならないよう t による区分が 10 のところを 9 とする。
- ・ QW-191.2.3 同 上
- ・ QW-192.1.3 変更区分を②とする。
- ・ QW195.2.2 (b) 基本 5mm とするが、他の規格等を調査する。
変更区分は③となる。
- ・ QW-151.1 「減断面試験片」、「丸型試験片」について、用語として適切かどうか、JIS 用語等を調べる。

3) 第Ⅵ章 アーティク 4(逢澤委員)

[資料 67-7-3]

逢澤委員が資料を基に、コメントを反映したレビュー票修正案を説明した。

修正部分について、コメントなし。

- ・ 距離振幅技法について、用語が適切かどうか調べる。

- ・ T435～(管台の UT)に関し、構造側の規定内容を再確認する。

4) 第Ⅵ章 アーティク 2(原田委員)

[資料 67-7-4]

原田委員が資料を基に、Table-T-276 の透過度計の選定区分に関する調査検討結果を説明し、了承された。

(4-2) 検査に係る用語の統一について

- 飯田委員から構造分科会では検査用語に関して、examination は「試験」、inspection を「検査」、testing を「テスト」とするとの情報提供があった。
- ASME の使い分けは、examination は判定を伴わない試験、testing は、判定を伴う検査、inspection は inspector の検査と思われるか、ASME の 5 章、B31.1 等の定義、JIS の定義等を確認して、次回分科会にて審議を行う。

6. 次回開催予定

- ・ 時間：2015 年 11 月 9 日（月）13 時 30 分から
- ・ 場所：日本機械学会 3,4 会議室

以 上